

(第27号) ***電子ジャーナル1(導入編)***

最近では、非来館型図書館というネーミングが登場するほど、電子媒体が当たり前利用されるようになりましたが、その入手の仕方は、まだまだ条件が統一されず多くのパターンがあります。

まずは価格についてですが、電子ジャーナル(=EJ)には、無料のものと有料のものがあります。無料のものは、Open Access誌(第5号参照)や、プリント版購読者に無料提供されるEJなどです。

一方、有料のEJは、大学として利用する場合は多人数の利用者が見込まれるため、個人購読とは異なり高額の価格が設定されています。プリント版にも同様の機関購読料金の設定がありますが、EJの場合はさらにサイト料金として、大学の規模、建物や施設の数とその距離、教職員数、学生数など出版社ごとの細かい基準で算定されます。

有料EJの中でも、プリント版とセットの価格設定のあるものは、さらに複雑です。セットで割安になるのは一般的ですが、特にEJ化を推進しているような出版社では割高になることもあります。また、出版社ごとにテーマや分野別にまとめたお得なEJパッケージ商品を提供していますが、そのEJを買う条件として購読規模の維持義務を提示する出版社もあります。購読維持義務は、EJ発注時(または数年遡って)の契約規模を維持継続することを条件にしているもので、維持できない場合は相当の代価の支払いを求められたり、契約そのものが成立しないこともあります。維持内容としては、プリント版を買い続けなければならないもの、EJの総額を減らせないものなどがあります。維持する対象に講座や個人での購読誌が含まれる場合もあり、学内の状況把握に苦慮しています。一方で、出版社に大学と個人・講座の購入は別ということを訴えかけても認められないこともあり、その場合は図書館と学内の誰かが同じ雑誌を別々に購入していると、2誌分の維持義務が生じてしまいます。つまり、EJを利用するために同じプリント版を2冊買い続けなくてはならないということになります。

価格の他にも、EJ特有の条件があります。例えば、Archival Access保証ですが、購読を中止した場合、これまで購読していた巻号に永続的にアクセスできるものと、全く利用できなくなるものがあります。また、購読中は一定期間遡ったBack Fileまで閲覧できるものと、別料金のものがあります。さらに、他機関との相互協力に自由に使用できるもの、できないもの、条件付で可能なものなどがあります。

便利なEJではありますが、このような様々な条件を踏まえ、適切な導入の検討が必要とされます。

図書館トリビア

表紙の色から図書を検索するユニークな OPAC が登場しました。英国のハダースフィールド大学図書館が平成 19 年 1 月末に公開したもので、探したい色を 16 進数の RGB 値(6桁の英数字によるコンピュータでの色の表現法)に変換して検索すると、該当する図書の表紙の写真が表示され、さらに書誌や所蔵情報にリンクします。同系色の本の一覧はまるで絵画を見ているようでもあり、この新たな概念は記憶を呼び起こし、発見も与えてくれそうです。

Cover finder! <http://webcat.hud.ac.uk/perl/colour.pl>

メールマガジンに関する意見・質問は、運用係 unyo@lib.iwate-med.ac.jp まで。